



この夏も暑かったですね。特に今年は6月から猛暑日（最高気温35℃以上）が4日間もあり、2022年以来的記録で、暑い期間が長く続いているのも特徴的です。メジャーリーグの大谷選手の「50-50（フィフティー・フィフティー＝50本塁打と50盗塁）」にちなんで、近年では“暑さの”「50-50」が言われるようになりました。これは年間で猛暑日が50日以上・熱帯夜（最低気温が25℃以上）が50日以上 of 暑さの記録です。今年は全国的には京都市がすでに達成していて、2年連続の記録だそうです。名古屋では昨年は猛暑日が47日、熱帯夜が56日と、わずかに「50-50」の記録にはなりませんでした。今年8月29日現在で、猛暑日が41日、熱帯夜が58日と、昨年のこの時期を大きく上回っています。“暑さの”「50-50」、記録達成に迫る勢いですが、達成してほしくない記録ですね。

夏休みも終わって2学期が始まります。「学校に行けて、みんなに会えてうれしいな！」でしょうか？それとも「ああ、学校始まる…嫌だなぁ～」でしょうか？いずれにしても、新たな気持ちで2学期をスタートすることで、きっとステキな学校生活が送れることでしょう！2学期は学校でもいろいろな行事があると思います。さまざまな不安や心配があるかもしれませんが、みなさん一人ひとり、心も体も健康に過ごして、一人ひとりの“いいところ”を伸ばして欲しいと祈っています。ぜひ自分にとっての良い面での“新記録”に挑戦して、自分自身の“記録達成”を実現してください！

今月の礼拝

単元22: 王と預言者たち

📖 …お話 🎵 …奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4～中学生) 9:00～9:30	プレイ・タイム (小学生／中学生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～10:20
9月7日	王になったダビデ (「成長」2025年8/10)	サムエル記下 6:1-7:17	📖 武岡 基 🎵 安達いづみ		📖 武岡 基 🎵 安達いづみ
9月14日	知恵を求めたソロモン (「成長」2025年8/17)	列王記上 3 章	📖 安達正樹牧師 🎵 武岡路実		📖 安達正樹牧師 🎵 武岡路実
9月21日	ヨナとニネベの人々 (「成長」2025年9/14)	ヨナ書 1-4 章	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ		📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
9月28日	ヨシヤの宗教改革 (「成長」2025年9/28)	列王記下 22:1-23:25	📖 武岡 基 🎵 武岡路実		📖 安達いづみ 🎵 武岡路実

※聖書箇所やお話の内容・担当者は、変更することがあります。

しんきび 振起日 あまり馴染みがないかもしれませんが「振起」とは「奮い立つこと。奮い起こすこと。」という意味です。教会的には「再びしっかりと信仰を持つ」「神さまに立ち返る」とも言いましょうか。CSの子どもたちみなさんにはちょっと難しいかもしれませんが、「神さまのことを思い起こす」「神さまの御声に耳を傾ける」と言い換えましょう。

教会の伝統の中で9月の第1日曜日を「振起日」「決心日」と定めているところもあります。これから秋、そしてクリスマスへと向かっていきます。教会の歩みもしっかり続けていきましょう。



今月の聖句

み ま え す す か ん し や が く ね あ よ る こ さ け
御前に進み、感謝をささげ 楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。

(詩編95:2)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 4 1 (ハレルヤ、うたえ) (讃美歌21… 172)

今月のCS礼拝では旧約聖書から「王と預言者」について学びます。預言者とは神さまからの言葉を受けて人々に伝える役割の者ですから、神さまへの深い信仰を持っている人です。旧約聖書の時代、王として立つ人は神さまへの信仰を持つ者が相応しいとされていました。逆に言えば神さまへの信仰を持たない王では神さまを軽んじて背き、神さまから見放されてしまい、国として滅びてしまうことでもありました。そのため、政治と信仰はとても深いつながりがありました。

1500年代前半、スイスで宗教改革を進めたジャン=カルヴァンは会衆が自分たちの言葉で歌うことを重視しました。特にカルヴァンがこだわったのは、聖書の言葉で賛美することです。そのために詩編を用いるべきであるとの考えに基づいて作られたのが「ジュネーヴ詩編歌」です。歌詞は、詩編をフランス語で歌えるように翻訳し、旋律はドイツの「コラル」と同じように当時の人々がよく知っていて誰でも歌えるものを用いました。

今月のさんびか「ハレルヤ、うたえ」は詩編150編を歌うジュネーヴ詩編歌です。ジャン=カルヴァンの時代、今から500年ほど昔の音楽ですから、拍子記号もなく、楽譜を見て戸惑いを感じるかもしれません。けれども用いられているのは、当時皆が知っていて大好きだった旋律です。歌詞は、神さまを賛美するために、さまざまな楽器を用いて喜んで歌い踊れ、と歌っています。「ハレルヤ、うたえ」はそんな神さまへの賛美を歌ったさんびかです。言葉を大事にする「詩編歌」を歌うときは、まず歌詞をしっかりと読んでおきましょう。歌うときは、文章のまとまりを一息で歌うようにします。音符は二分音符を「タン・タン(♪+♪)」の長さではなく、「ターン(ゆっくりめの♪)」と考えて1拍と捉え、四分音符を速めの「タン」と捉えるといいでしょう。そうするとどのフレーズも「ターン・ターン・タン・タン・タン・タン・ターン」のリズムの繰り返しで「♪♪♪♪♪♪♪」のゆっくりめ(ゆったり)といったリズムです。3段目と4段目は途中で休符が入りますが、「休み」ではなく「次の歌詞を歌い直すための準備」といった気持ちの切り替えと捉えてください。そのことをちょっと意識するだけで、メロディーの流れに乗って自然に歌えるように作られています。慣れてきたら勢いをつけて少し早めのテンポで歌ってみると、躍動感が出て、より歌いやすくなります。打楽器や手拍子を入れてみることもできます。体が自然と動きだし、心からの賛美が身体全体で表現できます。昔の人たちも嬉しい気持ちで、皆で声を合わせて歌ったことでしょう。



がたんじょうびおめでとう🍰

9月生まれのお友だち

教会の暦で、9月には行事や祝日が何もない?!

キリスト教（プロテスタント、カトリック、正教会）全体で共通した祝日はクリスマス（イエスさまの誕生を祝う日 12月25日）、イースター（十字架にかけられたイエスさまが復活された日 3月下旬～4月上旬）、ペンテコステ（イエスさまが天に昇られた後、神さまからの聖霊が私たちに与えられた日 イースターから50日後）の3大祝日です。他にもプロテスタント、カトリック、正教会、それぞれでさらに祝日や行事が定められています。プロテスタントに属する日本基督教団では、花の日・子どもの日（6月第2）、平和聖日（8月第1）、収穫感謝日（11月第4）など特定の暦や行事の日が定められています。ところが、日本基督教団が定めている暦や行事では、9月には何もありません。

ちなみにカトリックでは、9月8日は聖母マリアの誕生を祝う日に定められています。この習慣は、エルサレムではじまったと言われ、5世紀にエルサレムで建設された聖マリア誕生の大聖堂でこの祝日が祝われたことに始まるそうです。